

(5) 動物の生息、植物の生育、植生、緑の量及び生態系の状況

対象事業実施区域を含む関係市町に生息する動物相について、表 3.2-21 に示す文献資料を用いて整理した。また、文献資料で確認された種を対象に表 3.2-22 に示す基準に該当する種を重要種として整理した。

表 3.2-21 文献資料一覧

文献番号	文献名	項目
A	埼玉県レッドデータブック動物編 2018 (第4版) (埼玉県、2018年)	動物
B	第2回～第6回自然環境保全基礎調査 (環境庁、1978年～2005年)	動物
C	埼玉県動物誌 (埼玉県教育委員会、1978年)	動物
D	埼玉県レッドデータブック 2011 植物編 (埼玉県、2011年)	植物
E	1998年版埼玉県植物誌 (埼玉県教育委員会、1998年)	植物
F	第4回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林 (環境庁、1991年)	巨樹・巨木林
G	第6回・7回自然環境保全基礎調査 植生調査 (環境省 HP より)	植生図

表 3.2-22 (1) 重要種選定基準

No.	選定基準	対象項目	
		動物	植物
①	「文化財保護法」(昭和25年法律第214号) ・特別天然記念物(特天) ・国指定天然記念物(国天)	○	○
②	「埼玉県文化財保護条例」(昭和30年埼玉県条例第46号) ・県指定天然記念物(県天)	○	○
③	「熊谷市文化財保護条例」(平成17年10月1日条例第120号) 「深谷市文化財保護条例」(平成18年1月1日条例第122号) 「寄居町文化財保護条例」(昭和32年2月28日条例第77号) ・市町指定天然記念物(市天)	○	○
④	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成4年法律第75号) ・国内希少野生動植物種(国内) ・国際希少野生動植物種(国際) ・特定第一種国内希少野生動植物種(第一) ・特定第二種国内希少野生動植物種(第二) ・緊急指定種(緊急)	○	○
⑤	「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」(平成12年埼玉県条例第11号) ・県内希少野生動植物種に指定された種(指定) 動物:アカハライモリ、ムサシトミヨ、ソボツチスガリ 植物:アオネカズラ、キレハオオクボシダ、デンジソウ、イトハコベ、オニバス、タマノカンアオイ、サワトラノオ、サクラソウ、チチブイワザクラ、チチプリンドウ、キタミソウ、キバナコウリンカ、ミヤマスカシユリ、トダスゲ、ムギラン、ホテイラン、コ克蘭、トキソウ、ムカデラン	○	○
⑥	「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月環境省自然環境局野生生物課) ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧I類(CR+EN) ・絶滅危惧IA類(CR) ・絶滅危惧IB類(EN) ・絶滅危惧II類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	○	○
⑦	「埼玉県レッドデータブック2018 動物編」(平成30年埼玉県)の地域区分「全県」の指定種 ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧I類(CR+EN) ・絶滅危惧IA類(CR) ・絶滅危惧IB類(EN) ・絶滅危惧II類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・環境条件の変化によって容易に絶滅危惧に移行しうる属性を本来有しているもの(NT1) ・生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの(NT2) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) ・地帯別危惧(RT)	○	○
	「埼玉県レッドデータブック2011 植物編」(平成23年埼玉県) ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧IA類(CR) ・絶滅危惧IB類(EN) ・絶滅危惧II類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		

表 3.2-22 (2) 重要種選定基準

No.	選定基準	対象項目	
		動物	植物
⑧	「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(平成 30 年埼玉県)の地帯区分「中川・加須低地」の指定種 ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧 I 類(CR+EN) ・絶滅危惧 I A 類(CR) ・絶滅危惧 IB 類(EN) ・絶滅危惧 II 類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・環境条件の変化によって容易に絶滅危惧に移行しうる属性を本来有しているもの(NT1) ・生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの(NT2) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) ・地帯別危惧(RT)	○	

ア 動物

(ア) 動物相及び保全すべき種の状況

「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」によると、調査範囲及びその周辺は主に中川・加須低地に属し、対象事業実施区域周辺には水田が多くみられる。

分類群毎の確認種数を表 3.2-23 に示す。文献資料によると関係市町では 835 種の動物が確認された。主な確認種はアズマモグラ、アカネズミ、タヌキ等の哺乳類、キジバト、コサギ、ツバメ等の鳥類、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、トウキョウダルマガエル等の両生類、ニホンイシガメ、ヒガシニホントカゲ、シマヘビ等の爬虫類、ハグロトンボ、オンブバッタ、ナミアゲハ等の昆虫類、ギンブナ、モツゴ、ミナミメダカ等の魚類、モノアラガイ、ヌカエビ、モクズガニ等の底生動物であった。

表 3.2-23 分類群毎の確認状況(動物)

分類	目数	科数	種数
哺乳類	5	12	35
鳥類	20	52	222
両生類	2	6	11
爬虫類	2	7	12
昆虫類	11	115	465
魚類	8	17	48
底生動物	12	27	42
計	60 目	236 科	835 種

確認された重要種を表 3.2-24～表 3.2-30 に示す。

関係市町では、計 360 種(哺乳類 23 種、鳥類 109 種、両生類 9 種、爬虫類 11 種、昆虫類 168 種、魚類 26 種、底生動物 14 種)の重要種が確認された。

表 3.2-24 重要種一覧（哺乳類）

No.	種名	重要種選定基準							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	アズミトガリネズミ						NT	DD	
2	カワネズミ							NT1	
3	ミズラモグラ						NT	NT1	
4	コキクガシラコウモリ							NT1	
5	キクガシラコウモリ							NT1	
6	ヒメホオヒゲコウモリ							NT1	
7	カグヤコウモリ							EN	
8	モリアブラコウモリ						VU	EN	
9	ヤマコウモリ						VU	VU	
10	クビワコウモリ						VU	EN	
11	チチブコウモリ							EN	
12	ウサギコウモリ							NT1	
13	ユビナガコウモリ							EX	
14	コテングコウモリ							NT1	
15	テングコウモリ							NT1	
16	オヒキコウモリ						VU	DD	
17	ホンドモモンガ							NT1	
18	ムササビ							NT1	
19	ヤマネ	国天						NT1	
20	ツキノワグマ				国際			NT2	
21	オオカミ				国際			EX	
22	オコジョ							NT1	
23	カワウソ	特天			国際			EX	
合計	23種	2種	0種	0種	3種	0種	6種	23種	0種

注) 種名、科の配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」(令和3年 国土交通省)に従った。

表 3.2-25 (1) 重要種一覧（鳥類）

No.	種名	選定根拠及び指定状況							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	ウズラ						VU	越:CR 繁:CR	越:CR 繁:CR
2	ヤマドリ							越:VU 繁:VU	
3	サカツラガン						DD		
4	ヒシクイ	国天					亜種ヒシクイ:VU 亜種オオヒシクイ:NT	越:CR	越:CR
5	マガン	国天					NT	越:CR	越:CR
6	カリガネ						EN	越:EX	越:EX
7	ハクガン						CR		
8	シジュウカラガン				国内		CR	越:EX	越:EX
9	コハクチョウ							越:NT1	越:NT1
10	オオハクチョウ							越:CR	越:CR
11	オシドリ						DD	越:VU 繁:EN	越:EN
12	トモエガモ						VU	越:VU	越:VU
13	アカエリカイツブリ							越:VU	越:VU
14	カンムリカイツブリ							越:VU	越:VU
15	ミミカイツブリ							越:DD	越:DD

表 3.2-25 (2) 重要種一覧 (鳥類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
16	ハジロカイツブリ							越:NT1	越:NT1
17	アカオネツタイチョウ						EN		
18	シラコバト						EN	越:EN 繁:EN	越:EN 繁:EN
19	シロハラミズナギドリ						DD		
20	サンカノゴイ						EN		
21	ヨシゴイ						NT	繁:VU	繁:VU
22	オオヨシゴイ				国内		CR	繁:EX	繁:EX
23	ササゴイ								繁:EX
24	アマサギ							繁:LP	繁:LP
25	チュウサギ						NT	繁:VU	繁:NT2
26	コサギ							繁:NT2	繁:NT2
27	ヘラサギ						DD		
28	マナヅル				国際		VU		
29	タンチョウ	特天			国内		VU		
30	クロヅル						DD		
31	クイナ							越:VU	越:VU
32	ヒクイナ						NT	繁:CR	繁:CR
33	バン							繁:NT2	繁:NT2
34	オオバン							繁:NT1	繁:NT1
35	ジュウイチ							繁:LP	
36	ホトトギス							繁:RT	
37	ツツドリ							繁:LP	
38	カッコウ							繁:NT2	繁:NT2
39	ヨタカ						NT	繁:VU	繁:EX
40	タゲリ							越:NT2	越:NT2
41	ケリ						DD	越:EN 繁:NT1	越:EN 繁:NT1
42	イカルチドリ							繁:NT1	
43	シロチドリ						VU	繁:LP	繁:LP
44	オオメダイチドリ				国際				
45	ヤマシギ							越:VU	越:VU
46	オオジシギ						NT	繁:CR	
47	タシギ							越:RT	越:NT2
48	オオソリハシシギ						VU		
49	コシヤクシギ				国際		EN		
50	ツルシギ						VU		
51	タカブシギ						VU		
52	イソシギ							繁:VU	繁:VU
53	ハマシギ						NT		
54	タマシギ						VU	越:CR 繁:CR	越:CR 繁:CR
55	ツバメチドリ						VU	繁:CR	繁:CR
56	コアジサシ				国際		VU	繁:CR	繁:CR
57	アジサシ							繁:DD	繁:DD
58	ハチクマ						NT	繁:EN	
59	トビ							繁:DD	
60	オジロワシ	国天			国内		VU		
61	チュウヒ				国内		EN	越:EN	越:EN
62	ハイイロチュウヒ							越:EN	越:EN

表 3.2-25 (3) 重要種一覧 (鳥類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
63	ツミ							繁:NT2	繁:NT2
64	ハイタカ						NT	越:NT2 繁:DD	越:VU
65	オオタカ						NT	越:VU 繁:VU	越:VU 繁:VU
66	サシバ						VU	繁:CR	繁:EX
67	ノスリ								越:NT2 繁:DD
68	オオコノハズク							越:DD 繁:DD	越:DD 繁:EX
69	コノハズク							繁:VU	
70	フクロウ							越:NT2 繁:RT	越:VU 繁:EN
71	アオバズク							繁:NT2	繁:EN
72	トラフズク							越:EN	越:EN
73	コミミズク							越:VU	越:VU
74	カワセミ							繁:RT	繁:LP
75	ヤマセミ							繁:NT2	
76	アリスイ							越:NT2	越:NT2
77	アオゲラ							繁:RT	繁:DD
78	チョウゲンボウ							繁:NT2	繁:NT2
79	ハヤブサ				国内		VU	越:VU	越:VU
80	サンショウクイ						VU	繁:EN	繁:EX
81	サンコウチョウ							繁:EN	繁:EX
82	チゴモズ						CR	繁:CR	
83	アカモズ				国内		EN	繁:CR	繁:EX
84	ヤマガラ							繁:RT	
85	ヒガラ							繁:RT	
86	コシアカツバメ							繁:DD	
87	ウグイス							繁:RT	
88	エゾムシクイ							繁:NT2	
89	センダイムシクイ							繁:NT2	
90	オオセッカ				国内		EN	越:DD	越:DD
91	オオヨシキリ							繁:NT2	繁:NT2
92	コヨシキリ							繁:EN	繁:EN
93	コムクドリ							繁:DD	
94	トラツグミ							繁:NT2	
95	クロツグミ							繁:NT2	
96	アカハラ							繁:NT2	
97	コルリ							繁:NT1	
98	ルリビタキ							越:RT	越:NT2
99	コサメビタキ							繁:EN	繁:EX
100	キビタキ							繁:RT	
101	ニュウナイスズメ							越:NT1	越:NT1
102	ベニマシコ							越:RT	越:NT1
103	ホオジロ							繁:RT	繁:NT2
104	ホオアカ							繁:CR	繁:EX
105	ミヤマホオジロ							越:NT1	越:NT1
106	シマアオジ				国内		CR		
107	アオジ							繁:DD	

表 3.2-25 (4) 重要種一覧 (鳥類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
108	クロジ							越:RT	越:NT2
109	コジュリン						VU	越:VU	越:VU
合計	109種	4種	0種	0種	13種	0種	46種	90種	68種

注1) 種名、科の配列等は、原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年 日本鳥学会)に従った。

注2) 選定根拠⑦⑧の「繁」は繁殖鳥、「越」は越冬鳥を示す。

表 3.2-26 重要種一覧 (両生類)

No.	種名	重要種選定基準							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	トウキョウサンショウウオ				第二		VU	EN	
2	アカハライモリ					指定	NT	CR	EX
3	アズマヒキガエル							NT1	NT1
4	ニホンアカガエル							VU	EN
5	トノサマガエル						NT		
6	トウキョウダルマガエル						NT	NT1	NT1
7	ツチガエル							EN	CR
8	シュレーゲルアオガエル							NT2	VU
9	カジカガエル							NT1	
合計	9種	0種	0種	0種	1種	1種	4種	8種	6種

注1) 種名、科の配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」(令和3年 国土交通省)に従った。

表 3.2-27 重要種一覧 (爬虫類)

No.	種名	重要種選定基準							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	ニホンイシガメ						NT	DD	DD
2	ニホンスッポン						DD	DD	DD
3	ヒガシニホントカゲ							NT2	NT1
4	ニホンカナヘビ							RT	NT2
5	シマヘビ							VU	VU
6	アオダイショウ							NT2	NT1
7	ジムグリ							NT1	EN
8	シロマダラ							VU	EN
9	ヒバカリ							NT1	NT1
10	ヤマカガシ							NT1	NT1
11	ニホンマムシ							NT2	EN
合計	11種	0種	0種	0種	0種	0種	2種	11種	11種

注1) 種名、科の配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」(令和3年 国土交通省)に従った。

表 3.2-28 (1) 重要種一覧 (昆虫類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	ヒトリガカゲロウ						NT	DD	EN
2	トウヨウモンカゲロウ							VU	VU
3	ミットゲヒメシロカゲロウ							EX	EX
4	オオセスジイトトンボ						EN	CR	CR
5	ムスジイトトンボ							DD	DD
6	キイトトンボ							NT2	VU
7	ベニイトトンボ						NT	EN	EN
8	ヒヌマイトトンボ						EN	CR	CR
9	モートンイトトンボ						NT	EN	EN
10	オオモノサシトンボ						EN	EN	EN
11	コバネアオイトトンボ						EN	EX	EX
12	アオハダトンボ						NT	VU	EX
13	キイロサナエ						NT	VU	EX
14	ホンサナエ							VU	EX
15	ナゴヤサナエ						VU	VU	EN
16	メガネサナエ						VU	EX	EX
17	マダラヤンマ						NT	DD	DD
18	ネアカヨシヤンマ						NT	NT2	DD
19	アオヤンマ						NT	VU	NT1
20	マルタンヤンマ							NT2	DD
21	サラサヤンマ							NT2	VU
22	トラフトンボ							VU	VU
23	キイロヤマトンボ						NT	CR	EX
24	エゾトンボ							CR	EX
25	ベッコウトンボ		国内				CR	EX	EX
26	ヨツボシトンボ							VU	CR
27	ハラビロトンボ							NT2	VU
28	ヒメアカネ							VU	EN
29	オオキトンボ						EN	CR	CR
30	オナシカワゲラ							VU	VU
31	アサカワヒメカワゲラ							NT2	VU
32	ヒメカワゲラ							VU	VU
33	ウスバカマキリ						DD	EN	EN
34	ヒガシキリギリス							NT1	VU
35	カヤキリ							EN	EN
36	オオクサキリ							CR	CR
37	オナガササキリ							RT	NT2
38	イズササキリ						DD	EN	EN
39	カスミササキリ							EN	EN
40	クツワムシ							EN	EN
41	エゾツユムシ							NT2	NT1
42	エゾエンマコオロギ							EN	EN
43	クマコオロギ							NT1	NT2
44	マツムシ							VU	NT1
45	スズムシ							RT	NT1
46	エゾスズ							RT	NT1
47	ヤマトフキバッタ							RT	
48	ハネナガイナゴ							NT1	VU
49	セグロイナゴ							VU	NT1
50	ショウリョウバッタモドキ							NT2	NT2

表 3.2-28 (2) 重要種一覧 (昆虫類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
51	ナキイナゴ							NT1	
52	ヒナバッタ							NT1	VU
53	ツマグロバッタ							VU	VU
54	クルマバッタ							NT2	NT2
55	カワラバッタ							EN	EN
56	クギヌキハサミムシ							NT2	NT2
57	クロスジオオウンカ							NT1	NT1
58	ハルゼミ							NT1	
59	エサキアメンボ						NT	NT2	NT2
60	ババアメンボ						NT	NT1	NT1
61	コオイムシ						NT	CR	EX
62	タガメ						VU	CR	EX
63	ミヤケミズムシ						NT	CR	CR
64	ミゾナシミズムシ						NT	VU	CR
65	トゲサシガメ							NT1	NT1
66	ヒメトゲヘリカメムシ							NT1	NT1
67	イネカメムシ							CR	CR
68	イネクロカメムシ							NT2	NT2
69	カワラゴミムシ							EN	EN
70	カワラハンミョウ						EN	EX	EX
71	アカガネオサムシ						VU	CR	CR
72	セアカオサムシ						NT	NT1	NT1
73	フタモンマルクビゴミムシ						EN	CR	CR
74	コハンミョウモドキ						EN	VU	VU
75	オサムシモドキ							EN	EN
76	ハマベミズギワゴミムシ							CR	CR
77	チョウセンゴモクムシ						VU	VU	VU
78	スナハラゴミムシ						VU	CR	CR
79	オオヨツボシゴミムシ							VU	VU
80	イグチケブカゴミムシ						NT	NT1	NT1
81	クビナガヨツボシゴミムシ						DD	NT2	NT2
82	オオサカアオゴミムシ						DD	EN	EN
83	アオヘリアオゴミムシ						CR	EN	EN
84	クビナガキベリアオゴミムシ						DD	EN	EN
85	チビアオゴミムシ						EN	CR	CR
86	ハガクビナガゴミムシ						DD	EN	VU
87	クロモンヒラナガゴミムシ							VU	VU
88	アリスアトキリゴミムシ						DD	NT2	NT2
89	オオアオホソゴミムシ							EX	EX
90	アオバネホソクビゴミムシ							NT1	NT1
91	ヒメホソクビゴミムシ							EN	EN
92	クビボソコガシラミズムシ						DD	CR	CR
93	マダラコガシラミズムシ						VU	VU	CR
94	マルケシゲンゴロウ						NT	VU	VU
95	トダセスジゲンゴロウ						VU	EN	EN
96	キベリマメゲンゴロウ						NT		
97	ゲンゴロウ						VU	CR	EX
98	コガタノゲンゴロウ						VU	EX	EX
99	マルガタゲンゴロウ						VU	CR	CR
100	シマゲンゴロウ						NT	NT1	VU

表 3.2-28 (3) 重要種一覧 (昆虫類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
101	オオミズスマシ						NT	CR	CR
102	ガムシ						NT	CR	EX
103	ルリエンマムシ							NT2	NT2
104	カントウコチビシデムシ							NT1	NT1
105	ヤマトモンシデムシ						NT	NT1	VU
106	ヤチハネカクシ						DD	NT1	NT1
107	Deinopsis modesta						DD	NT1	NT1
108	ペンギンダイコクアリヅカムシ							NT1	NT1
109	ヤツメアリヅカムシ							NT1	NT1
110	クロモンマグソコガネ						NT	NT1	NT1
111	ヒメキイロマグソコガネ						NT	NT1	NT1
112	オオキイロコガネ							NT1	NT1
113	トラハナムグリ							NT1	NT1
114	ケスジドROMシ						VU	EX	EX
115	ウバタマムシ							NT2	VU
116	ヘイケボタル							NT1	VU
117	イシハラジョウカイモドキ							VU	VU
118	シベリアユミアシケシキスイ							NT1	NT1
119	シベリアヒゲナガケシキスイ							NT1	NT1
120	ナカイケミヒメテントウ							NT2	NT2
121	ムモンチャイロテントウ							NT2	NT2
122	ワタラセミズギワアリモドキ							EN	EN
123	ヨツボシカミキリ						EN	EN	EN
124	アカアシオオアオカミキリ							NT2	VU
125	アオカミキリ							NT1	VU
126	シロスジカミキリ							NT2	NT2
127	フトネクイハムシ							EN	EN
128	ガガブタネクイハムシ							CR	CR
129	イネネクイハムシ							NT2	NT2
130	オオルリハムシ						NT	VU	VU
131	オオケブカチョッキリ							NT1	NT1
132	クロイネゾウモドキ							NT2	NT2
133	スゲノハラジロヒメゾウムシ							NT1	NT1
134	オオハラナガツチバチ							NT2	NT2
135	ニッポンハヤバチ							NT2	NT2
136	ニッポントゲアナバチ							VU	VU
137	ニッポンハナダカバチ						VU	CR	CR
138	キスジツチスガリ							NT1	NT1
139	シロスジケアシハナバチ							NT1	NT1
140	フタスジヤチバエ							NT2	NT2
141	カエルキンバエ						DD	NT2	NT2
142	フルトネニクバエ							VU	VU
143	アシナガモモフトスカシバ						VU	NT1	NT1
144	ミヤマセセリ							NT1	
145	ギンイチモンジセセリ						NT	NT2	
146	オオチャバネセセリ							NT2	NT2
147	コチャバネセセリ							NT2	NT2
148	ツマグロキチョウ						EN	EN	EX
149	ウラゴマダラシジミ							VU	
150	コツバメ							NT2	

表 3.2-28 (4) 重要種一覧 (昆虫類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
151	オオミドリシジミ							NT1	
152	ミヤマシジミ						EN	CR	EX
153	ミドリシジミ							NT1	NT1
154	クロシジミ						EN	EX	EX
155	ゴイシシジミ							NT2	NT2
156	シルビアシジミ本土亜種						EN	EX	EX
157	オオウラギンスジヒョウモン							NT2	NT2
158	メスグロヒョウモン							NT2	CR
159	ウラギンヒョウモン							NT2	CR
160	アサマイチモンジ							NT2	
161	ヒオドシチョウ							VU	VU
162	オオムラサキ						NT	VU	EX
163	ジャノメチョウ							NT2	EX
164	イボタガ							RT	CR
165	オナガミズアオ						NT	RT	LP
166	ヤママユ							RT	EN
167	イチモジヒメヨトウ						VU	NT2	NT2
168	ハスオビアツバ							NT1	NT1
合計	168 種	0 種	1 種	0 種	0 種	0 種	70 種	167 種	158 種

注 1) 種名、科の配列等は、原則として「日本産野生生物目録 (無脊椎動物編 II)」(平成 7 年 環境庁) に従った。

表 3.2-29 重要種一覧（魚類）

No.	種名	重要種選定基準							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	スナヤツメ北方種						VU	CR	
2	スナヤツメ南方種						VU	CR	
3	ニホンウナギ						EN	NT2	
4	ゲンゴロウブナ ^{注2}						※EN		
5	キンブナ						VU	VU	
6	ミヤコタナゴ	国天	県天		国内		CR	EW	
7	ヤリタナゴ						NT	CR	
8	タナゴ						EN	EX	
9	ゼニタナゴ						CR	EX	
10	ワタカ ^{注3}						※CR		
11	ハス ^{注4}						※VU		
12	ヒガイ類 ^{注5}						※		
13	スゴモロコ ^{注6}						※VU		
14	ドジョウ類 ^{注7}						※		
15	ホトケドジョウ						EN	CR	
16	ギバチ						VU		
17	アカザ						VU		
18	ワカサギ							NT1	
19	ニッコウイワナ						DD	VU	
20	サクラマス（ヤマメ）						NT	VU	
21	ムサシトミヨ					指定	CR	CR	
22	ミナミメダカ						VU	NT2	
23	メダカ類 ^{注8}						※	※	
24	カジカ						NT		
25	Cottus 属 ^{注9}						※		
26	ジュズカケハゼ						NT		
合計	26 種	1 種	1 種	0 種	1 種	1 種	25 種	15 種	0 種

注1) 種名、科の配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」（令和3年 国土交通省）に従った。

注2) ゲンゴロウブナは⑥ENに該当するが、埼玉県では国内外来種に該当する。

注3) ワタカは⑥CRに該当するが、埼玉県では国内外来種に該当する。

注4) ハスは⑥VUに該当するが、埼玉県では国内外来種に該当する。

注5) ヒガイ類として文献に掲載されている。カワヒガイの場合は⑥NTに該当するが、埼玉県では国内外来種に該当する。

注6) スゴモロコは⑥VUに該当するが、埼玉県では国内外来種に該当する。

注7) ドジョウ類は、文献にドジョウとして掲載されている。埼玉県には近年分類されたドジョウまたはキタドジョウが分布し、ドジョウの場合は⑤NT、キタドジョウの場合は⑤DDに該当する。

注8) メダカ類は、文献にメダカとして掲載されている。埼玉県には近年分類されたミナミメダカが分布するが、ヒメダカ等との交雑種の可能性等が考えられる。ミナミメダカの場合は⑥VU、⑦NT2に該当する。

注9) Cottus 属は、文献にカジカ類として掲載されている。カジカの場合は⑥NTに該当する。

表 3.2-30 重要種一覧（底生動物）

No.	種名	選定根拠及び指定状況							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	マルタニシ						VU	VU	NT2
2	モノアラガイ						NT	NT2	DD
3	カワネジガイ						CR	EX	EX
4	ヒラマキミズマイマイ						DD	NT2	DD
5	ミズコハクガイ						VU	LP	LP
6	トウキョウヒラマキガイ						DD	LP	LP
7	ヒラマキガイモドキ						NT	LP	LP
8	カワコザラガイ						CR	VU	DD
9	カラスガイ						EN	VU	VU
10	ドブガイ ^{注2}							NT2	NT2
11	マシジミ						VU		
12	ドブシジミ							NT2	VU
13	ヌカエビ							NT2	
14	サワガニ							NT2	
合計	14種	0種	0種	0種	0種	0種	10種	13種	11種

注1) 種名、科の配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」（令和3年 国土交通省）に従った。

注2) ドブガイは、近年の分類で細分化され、種としてのドブガイは存在しない。本種については便宜的に「日本産野生生物目録」（平成10年 環境庁）に準拠した。

イ 植物

(ア) 植物相及び保全すべき種の状況

「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」によると、調査範囲及びその周辺は主に標高 50m 未満の加須・中川低地に属している。

分類群毎の確認状況を表 3.2-31 に示す。文献資料によると、関係市町では 149 科 1099 種の維管束植物が確認された。主な確認種はミゾシダ、イヌワラビ等のシダ植物、アカマツ、イヌガヤ等の裸子植物、コナラ、エノキ、ヤナギタデ、アゼナ等の双子葉植物、スズメノテッポウ、オギ、ヨシ等の単子葉植物であった。

表 3.2-31 分類群毎の確認状況（植物）

分類	科	種類
高等植物	149	1,099
シダ植物	20	70
種子植物	129	1,029
裸子植物	5	7
被子植物	124	1,022
双子葉植物	103	727
離弁花類	70	462
合弁花類	33	265
単子葉植物	21	295

確認された重要種を表 3.2-32 に整理した。

関係市町では、計 61 科 152 種の重要種が確認された。

表 3.2-32 (1) 重要種一覧 (維管束植物)

No.	科名	種名	重要種選定基準							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
1	ミズニラ	ミズニラ						NT	VU	
2	トクサ	イヌスギナ							NT	
3	ハナヤスリ	アカハナワラビ							NT	
4		トネハナヤスリ					VU	CR		
5		コハナヤスリ							EN	
6	ゼンマイ	ヤシャゼンマイ							VU	
7	ウラジロ	ウラジロ							NT	
8	ミズワラビ	ミズワラビ							NT	
9	デンジソウ	デンジソウ					指定	VU	CR	
10	サンショウモ	サンショウモ						VU	EN	
11	アカウキクサ	アカウキクサ						EN	DD	
12	イチイ	カヤ (全久院の榎 (雌))			市天					
13	イラクサ	トキホコリ						VU	VU	
14		ホソバイラクサ								DD
15	ヤドリギ	マツグミ							EN	
16	タデ	ヒメタデ						VU	EN	
17		ホソバイヌタデ						NT	EN	
18		ナガバノウナギツカミ						NT	EX	
19		シロバナサクラタデ								NT
20		ヌカボタデ							VU	EN
21		コギシギシ							VU	VU
22		ナデシコ	ナンバンハコベ							NT
23	カワラナデシコ								VU	
24	イトハコベ						指定	VU	CR	
25	アカザ	カワラアカザ							EN	
26	マツブサ	チョウセンゴミシ							EN	
27	キンボウゲ	イチリンソウ							NT	
28		アズマイチゲ								NT
29		ヒメウズ								VU
30		コキツネノボタン							VU	EN
31		バイカモ								EN
32		ノカラマツ							VU	VU
33	メギ	イカリソウ							NT	
34	ツヅラフジ	コウモリカズラ							NT	
35	スイレン	オニバス					指定	VU	CR	
36		コウホネ								NT
37	マツモ	マツモ							VU	
38	ドクダミ	ハンゲショウ							VU	
39	ウマノスズクサ	カンアオイ							NT	
40	オトギリソウ	アゼオトギリ						EN	CR	
41	アブラナ	ハタザオ							VU	
42		コイヌガラシ							NT	NT
43	ユキノシタ	タコノアシ						NT	VU	
44	バラ	カワラサイコ							VU	
45		ナガボノシロワレモコウ								NT
46	マメ	イヌハギ						VU	VU	
47	トウダイグサ	ノウルシ						NT	VU	
48		ヤマアイ								CR
49	ムクロジ	ムクロジ (香林寺のムクロジ)			市天					
50	スマレ	タチスマレ						VU	CR	

表 3.2-32 (2) 重要種一覧 (維管束植物)

No.	科名	種名	重要種選定基準						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
51	スマレ	アケボノスマレ							NT
52		ヒゴスマレ							NT
53	ウリ	ゴキヅル							VU
54	ミソハギ	ヒメミソハギ							NT
55		エゾミソハギ							EN
56		ミズマツバ						VU	VU
57	ヒシ	ヒメビシ						VU	EN
58		ヒシ							NT
59		オニビシ							NT
60	アカバナ	ウスゲチョウジタデ						NT	VU
61	アリノトウグサ	ホザキノフサモ							EN
62		フサモ							NT
63	サクラソウ	ノジトラノオ						VU	EN
64		ヌマトラノオ							NT
65		クサレダマ							CR
66	マチン	ヒメナエ						VU	CR
67		アイナエ							NT
68	リンドウ	センブリ							VU
69	ミツガシワ	ヒメシロアサザ						VU	EN
70		ガガブタ						NT	CR
71		アサザ						NT	VU
72	キョウチクトウ	チョウジソウ						NT	EN
73	アカネ	ハナムグラ						VU	EN
74	クマツヅラ	クマツヅラ							VU
75	シソ	ミゾコウジュ						NT	NT
76		オカタツナミソウ							NT
77		ヒメナミキ							EN
78	ゴマノハグサ	アブノメ							NT
79		シソクサ							EN
80		キクモ							NT
81		キタミソウ					指定	VU	EN
82		ヒキヨモギ							NT
83		イヌノフグリ						VU	NT
84		カワヂシャ						NT	VU
85	キツネノマゴ	ハグロソウ							NT
86	タヌキモ	タヌキモ						NT	CR
87	キク	カワラハハコ							VU
88		カワラヨモギ							VU
89		ヒメシオン							VU
90		サワシロギク							DD
91		タウコギ							NT
92		アワコガネギク						NT	NT
93		フジバカマ						NT	NT
94		アキノハハコグサ						EN	CR
95		オグルマ							NT
96		ホソバオグルマ						VU	EN
97		カセンソウ							NT
98		ノニガナ							NT
99		カワラニガナ						NT	VU
100		オナモミ						VU	VU

表 3.2-32 (3) 重要種一覧 (維管束植物)

No.	科名	種名	重要種選定基準						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
101	オモダカ	ヘラオモダカ							NT
102		サジオモダカ							EN
103		アギナシ						NT	CR
104		ウリカワ							NT
105	トチカガミ	クロモ							EN
106		トチカガミ						NT	VU
107		ミズオオバコ						VU	VU
108		セキシヨウモ							NT
109		コウガイモ							VU
110	ヒルムシロ	エビモ							NT
111		ヒルムシロ							NT
112		センニンモ							NT
113		ササバモ							NT
114		ヤナギモ							NT
115		イトモ						NT	VU
116	イバラモ	ホッスモ							DD
117		トリゲモ						VU	EN
118	ユリ	キジカクシ							NT
119		カタクリ							NT
120		ゼンテイカ							VU
121		アマナ							NT
122	ヒガンバナ	キツネノカミソリ							NT
123	アヤメ	カキツバタ						NT	CR
124	ホシクサ	ホシクサ							EN
125		イヌノヒゲ							EN
126		ヒロハイヌノヒゲ							VU
127	イネ	セトガヤ							NT
128		カリマタガヤ							VU
129		ヒメウキガヤ							VU
130		セイタカヨシ							VU
131		ウキシバ							VU
132	サトイモ	マイヅルテンナンショウ						VU	CR
133		ウラシマソウ							NT
134	ミクリ	ミクリ						NT	NT
135	カヤツリグサ	ヌマアゼスゲ						VU	CR
136		ウマスゲ							NT
137		オニナルコスゲ							EN
138		カンエンガヤツリ						VU	VU
139		シロガヤツリ							VU
140		コツブヌマハリイ						VU	CR
141		アゼテンツキ							EN
142		ヒメホタルイ							VU
143		タタラカンガレイ							CR
144		マツカサススキ							NT
145	ラン	ギンラン							VU
146		キンラン						VU	EN
147		ササバギンラン							NT
148		シュンラン							NT
149		オニノヤガラ							VU
150		アキザキヤツシロラン							EN

表 3.2-32 (4) 重要種一覧（維管束植物）

No.	科名	種名	重要種選定基準							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
151	ラン	クモキリソウ								NT
152		トキソウ					指定	NT	CR	
合計	61 科	152 種	0 種	0 種	2 種	0 種	5 種	55 種	150 種	

注 1) 種名、科の配列等は、原則として「植物目録 1987」（昭和 62 年 環境庁）に従った。

(イ) 巨樹・巨木林

「自然環境基礎調査 巨樹・巨木林（第 4 回・第 6 回）」に該当する樹木位置を図 3.2-19 に示す。

調査範囲及びその周辺において、ケヤキやイチョウ、カヤ等の 39 本の巨樹・巨木林に該当する樹木が確認された。調査範囲内ではイチョウが 2 本、カヤが 1 本、ケヤキが 7 本確認されており、対象事業実施区域に最も近い樹木は、対象事業実施区域の南西約 400m のケヤキとイチョウであった。

表 3.2-33 確認された巨樹・巨木に該当する樹木

科名	樹種名	本数		合計
		調査範囲内	調査範囲外	
イチョウ	イチョウ	2	5	7
スギ	スギ		2	2
イチイ	カヤ	1	5	6
ブナ	イチイガシ		1	1
ニレ	ハルニレ		1	1
	ケヤキ	7	10	17
クスノキ	クスノキ		3	3
バラ	イヌザクラ		1	1
カエデ	イタヤカエデ		1	1
合計		10	29	39

(ウ) 天然記念物

調査範囲及びその周辺で確認された天然記念物の位置を図 3.2-19 に示す。

埼玉県及び熊谷市立江南文化財センター等のホームページ*によると、調査範囲及びその周辺において、深谷市指定の天然記念物が 2 か所、熊谷市指定の天然記念物が 7 か所、合計 9 か所で確認された。調査範囲内で確認された天然記念物を表 3.2-34 に示す。なお、国指定、県指定の天然記念物は確認されなかった。

表 3.2-34 調査範囲内に位置する天然記念物

指定	名称	所在地	所有者
深谷市	榎（雌）	埼玉県深谷市東方 2,902	全久院
熊谷市	無患子	埼玉県熊谷市東別府 799	香林寺

※参考資料

埼玉県教育委員会. "埼玉県内の国・県指定等文化財". 埼玉県ホームページ.

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2216/bunkazai-kensu.html>, (参照 2021-8-26)

深谷市. "深谷市の歴史と文化財". 深谷市ホームページ.

http://www.city.fukaya.saitama.jp/rekishi_bunkazai/shinobunkazai/fukayashishiteinobunkazai/kinenbutu/1391732439603.html, (参照 2021-8-26)

熊谷市立江南文化財センター. "文化財の部屋". 熊谷デジタルミュージアム

<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/frames/bunkazai.htm>, (参照 2021-8-26)

ウ 植生

(ア) 現存植生

調査範囲及びその周辺の現存植生を図 3.2-20 に示す。

調査範囲は広く耕作地として利用されており、水田雑草群落や畑雑草群落が主に分布している。樹林は少なく、対象事業実施区域より南側にクヌギーコナラ群集やスギ・ヒノキ・サワラ植林が点在している。また、対象事業実施区域の南西側に市街地や工場地帯がまとまってみられる。

対象事業実施区域は造成地として区分されており、現在は「熊谷衛生センター」として稼働中である。

(イ) 植生自然度及び希少な群落

調査範囲内で確認された群落とその植生自然度の一覧を表 3.2-35 に示す。

調査範囲内において、植生自然度の高い群落（自然植生）として、対象事業実施区域の南側に隣接する別府沼公園と、この公園を流れる水路の下流にヨシクラスがみられる。また、「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編（埼玉県、2011 年）」における希少な群落として、熊谷市でコナラ群落が確認されている。

表 3.2-35 調査範囲内で確認された群落及びその植生自然度

植生自然度	区分内容	凡例名
10	自然草原	ヨシクラス
7	二次林	クヌギーコナラ群集
6	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林
4	二次草原（背の低い草原）	ゴルフ場・芝地
		路傍・空地雑草群落
3	外来種植林、農耕地（樹園地）	果樹園
		放棄水田雑草群落
2	外来種草原、農耕地（水田・畑）	畑雑草群落
		水田雑草群落
		緑の多い住宅地
1	市街地等	市街地
		工場地帯
		造成地
-	-	開放水域

(ウ) 特定植物群落

調査範囲には、特定植物群落に該当する群落は確認されなかった。

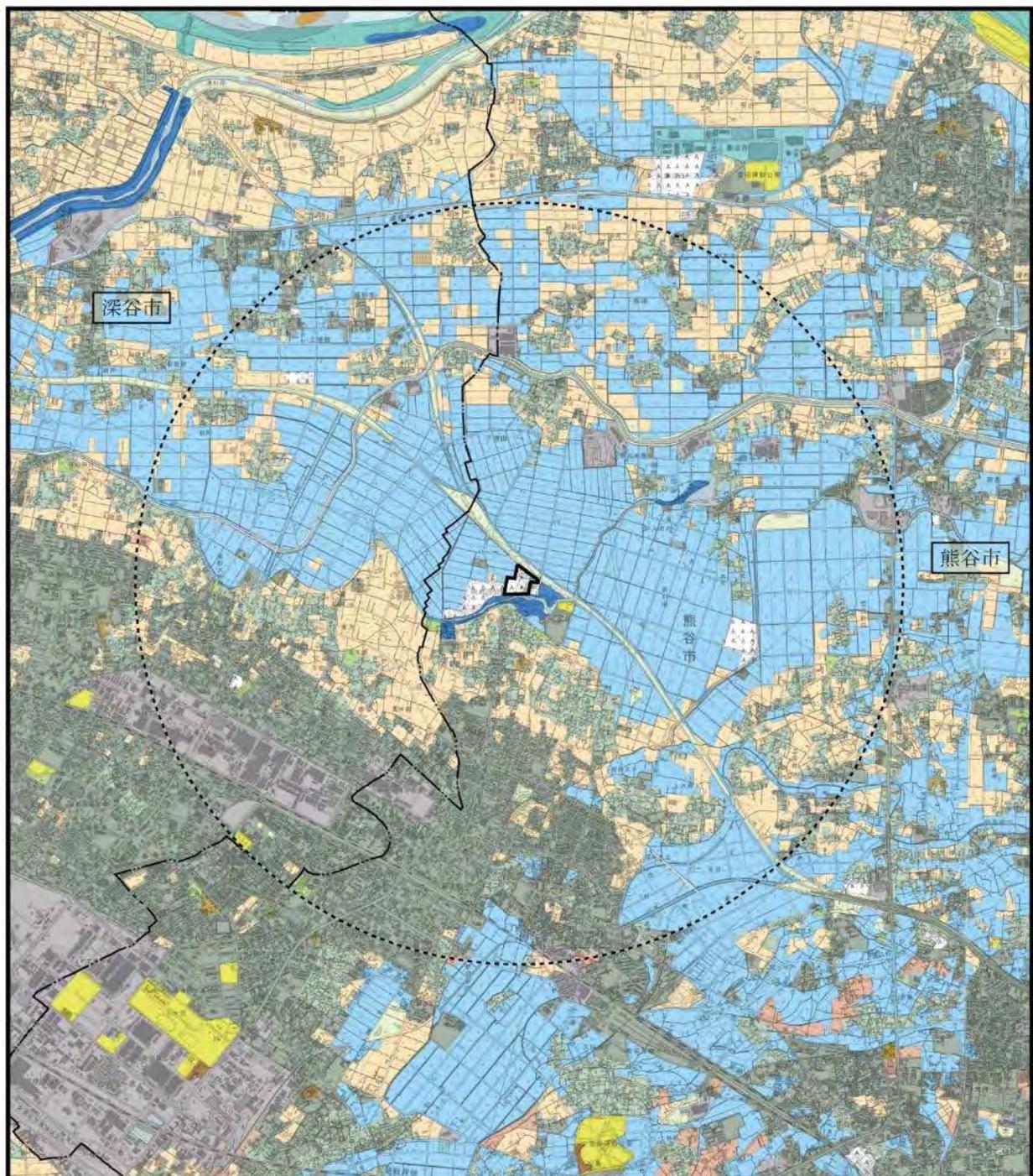
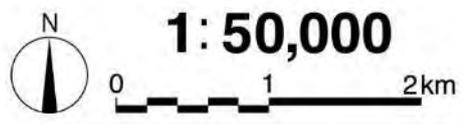


図 3.2-20 現存植生図

凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市 界
- : 調査範囲

- | | | |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> クヌギ・コナラ群集 ヨシクラス オギ群集 スギ・ヒノキ・サワラ植林 ニセアカシア群集 その他植林 ゴルフ場・芝地 路傍・空地雑草群落 | <ul style="list-style-type: none"> 果樹園 畑雑草群落 水田雑草群落 放棄水田雑草群落 市街地 | <ul style="list-style-type: none"> 緑の多い住宅地 工場地帯 造成地 開放水域 自然裸地 |
|---|--|--|



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

エ 緑の量

調査範囲内は広く水田や畑として利用されている。対象事業実施区域の南西部にまわって市街地がみられるものの、耕作地を緑に含めると調査範囲の緑被割合は高い。

オ 生態系

対象事業実施区域は、既に稼働中の「熊谷衛生センター」であり、敷地内には小規模な草地、樹林がみられる。

調査範囲内は水田が多く、所々に畑地、果樹園がみられる。また、南側には別府沼公園が隣接し、解放水域及びその周辺の樹林、湿地環境がみられる。別府沼公園の南側は民家が多く畑地や水田がまばらにみられる。

このような環境を反映して、樹林地では生産者としてコナラ、リョウブ、ヤブコウジ等の植物、一時消費者としてアカネズミ等の哺乳類、キジバト、カケス等の鳥類、アブラゼミ、チャバネアオカメムシ、アオスジアゲハ等の昆虫類、中位消費者として、アズマモグラ、アブラコウモリ等の哺乳類、ホトトギス、ムクドリ等の鳥類、ヤニサシガメ、ハリブトシリアゲアリ等の昆虫類、上位消費者として、タヌキ、イタチ等の哺乳類やトビ、ノスリ等の鳥類が生息する生態系が構築されているものと考えられる。

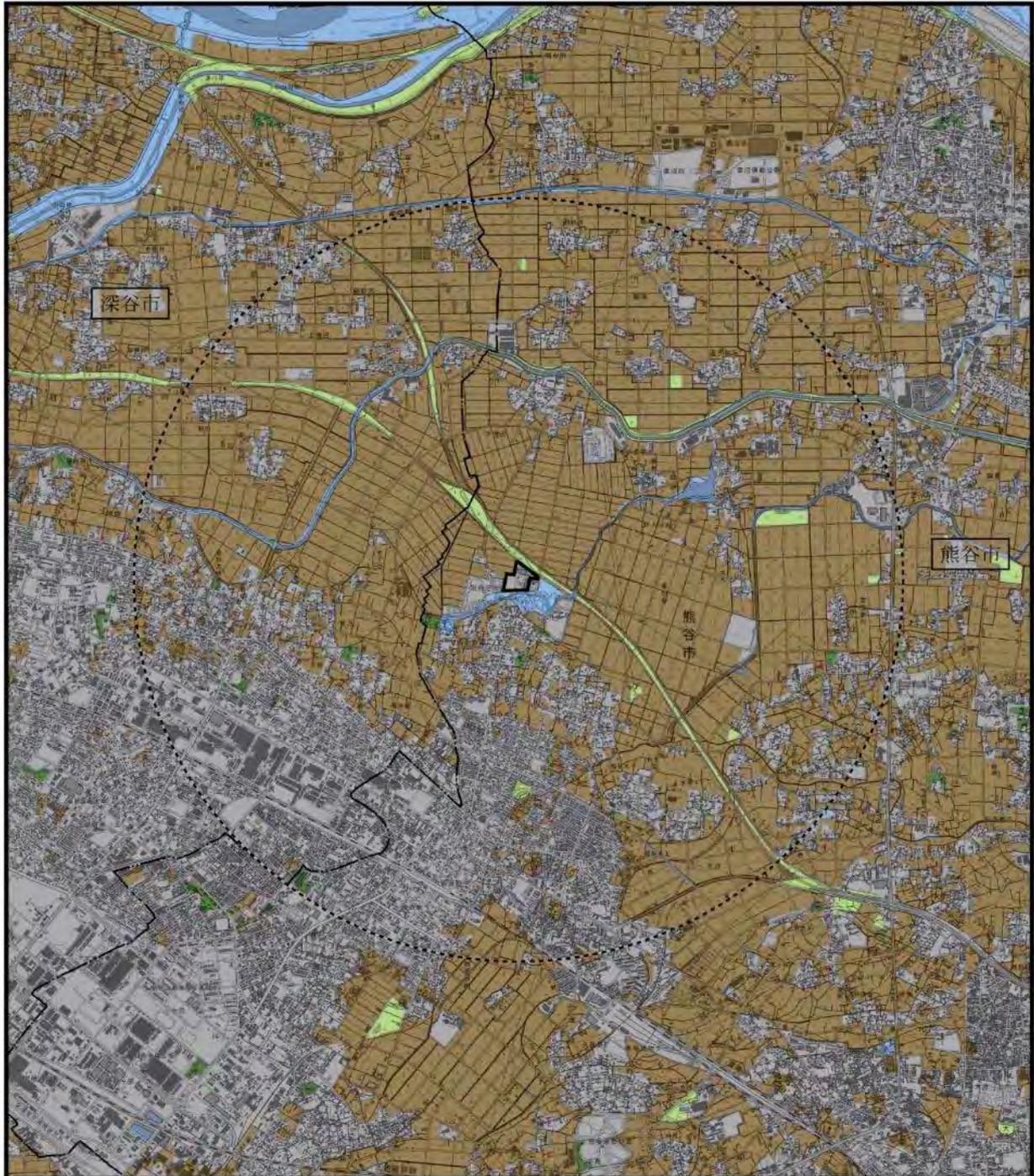
草地、耕作地、市街地では生産者として、スベリヒユ、ホトケノザ、エノコログサ等の植物、一次消費者として、アカネズミ、ノウサギ等の哺乳類、スズメ、カワラヒワ等の鳥類、トノサマバツタ、ナガメ等の昆虫類、中位消費者として、アズマモグラ、アブラコウモリ等の哺乳類、ツバメ、ウグイス等の鳥類、ニホンアマガエル等の両生類、ヒガシニホントカゲ等の爬虫類、クロモンサシガメ、チョウセンゴモクムシ等の昆虫類、上位消費者として、タヌキ、イタチ等の哺乳類、チョウゲンボウ、トビ等の鳥類が生息する生態系が構築されているものと考えられる。

水辺植生及び解放水域では、生産者としてアカメヤナギ、オギ、マコモ等の植物、一次消費者として、コガモ、カルガモ等の鳥類、フタバコカゲロウ、コガタシマトビケラ等の昆虫類、モノアラガイ等の貝類、中位消費者として、カワセミ等の鳥類、ニホンアマガエル、トウキョウダルマガエル等の両生類、ニホンイシガメ等の爬虫類、ハグロトンボ、シオカラトンボ等の昆虫類、ミナミメダカ、モツゴ等の魚類、上位消費者としてサギ類等の鳥類が生息する水域生態系が構築されているものと考えられる。

類型区分ごとの生態系の概要を表 3.2-36 に類型区分図を図 3.2-21 にそれぞれ示す。

表 3.2-36 類型区分毎の生態系の概要

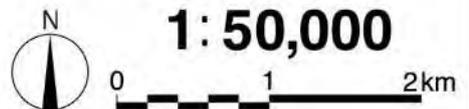
環境類型区分	生産者	一時消費者	中位消費者	上位消費者
樹林地	<ul style="list-style-type: none"> ・ベニシダ ・コナラ ・ヒサカキ ・リョウブ ・ヤブコウジ ・ガマズミ ・ジャノヒゲ 	<ul style="list-style-type: none"> 【哺乳類】 ・アカネズミ 【鳥類】 ・キジバト ・カケス ・シジュウカラ 【昆虫類】 ・アブラゼミ ・チャバネアオカメムシ ・アオスジアゲハ 	<ul style="list-style-type: none"> 【哺乳類】 ・アズマモグラ ・アブラコウモリ 【鳥類】 ・ホトトギス ・ムクドリ ・ツグミ 【昆虫類】 ・ヤニサシガメ ・ハリプトシリアゲアリ ・アミメアリ 	<ul style="list-style-type: none"> 【哺乳類】 ・タヌキ ・イタチ 【鳥類】 ・トビ ・ノスリ
草地 耕作地 市街地	<ul style="list-style-type: none"> ・スベリヒユ ・タガラシ ・ドクダミ ・ホトケノザ ・ツユクサ ・メヒシバ ・イヌビエ ・エノコログサ 	<ul style="list-style-type: none"> 【哺乳類】 ・アカネズミ ・ノウサギ 【鳥類】 ・スズメ ・カワラヒワ ・ホオジロ 【昆虫類】 ・トノサマバッタ ・ナガメ ・ヨモギハムシ 	<ul style="list-style-type: none"> 【哺乳類】 ・アズマモグラ ・アブラコウモリ 【鳥類】 ・ツバメ ・ウグイス ・オオヨシキリ 【両生類】 ・ニホンアマガエル 【爬虫類】 ・ヒガシニホントカゲ ・シマヘビ 【昆虫類】 ・クロモンサシガメ ・チョウセンゴモクムシ 	<ul style="list-style-type: none"> 【哺乳類】 ・タヌキ ・イタチ 【鳥類】 ・チョウゲンボウ ・トビ ・ノスリ
水辺植生 及び 解放水域	<ul style="list-style-type: none"> ・アカメヤナギ ・カワヤナギ ・オギ ・ヨシ ・マコモ ・ガマ 	<ul style="list-style-type: none"> 【鳥類】 ・コガモ ・カルガモ 【昆虫類】 ・フタバコカゲロウ ・コガタシマトビケラ 【底生動物】 ・モノアラガイ 	<ul style="list-style-type: none"> 【鳥類】 ・カワセミ 【両生類】 ・ニホンアマガエル ・トウキョウダルマガエル 【爬虫類】 ・ニホンイシガメ 【昆虫類】 ・ハグロトンボ ・シオカラトンボ ・エサキアメンボ 【魚類】 ・ドジョウ類 ・ミナミメダカ ・モツゴ 	<ul style="list-style-type: none"> 【鳥類】 ・サギ類



凡 例

- | | | | |
|---|------------|---|--------------|
|  | : 対象事業実施区域 |  | : 樹林地 |
|  | : 市 界 |  | : 草地 |
|  | : 調査範囲 |  | : 耕作地 |
| | |  | : 市街地 |
| | |  | : 水辺植生及び開放水域 |

図 3.2-21 環境類型区分図



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

(6) 景観、自然とのふれあいの場の状況

ア 景観

(ア) 景観資源

対象事業実施区域及びその周囲には、「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報 図 埼玉県」(平成元年、環境庁)によると自然景観資源は存在しないが、「埼玉県景観資源データベース」(令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)によると、表 3.2-37 及び図 3.2-22 に示すとおり、景観資源(建造物)が3箇所存在する。

また、文化財保護法(昭和25年5月、法律第214号)及び文化財保護条例等により指定されている景観資源となる史跡、名勝等は、「(7)文化財その他の生活環境の状況」の表 3.2-41 及び図 3.2-24 に示すとおりである。

なお、いずれの景観資源も対象事業実施区域周辺には存在しておらず、対象事業実施区域周辺は眺望対象にならないと考えられる。

表 3.2-37 景観資源の状況

No.	区分	名称	所在地
1	建築物	歓喜院聖天堂	熊谷市
2	建築物	メモリアル彩雲	熊谷市
3	建築物	熊谷文化創造館 さくらめいと	熊谷市

出典：「埼玉県景観資源データベース」(令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)

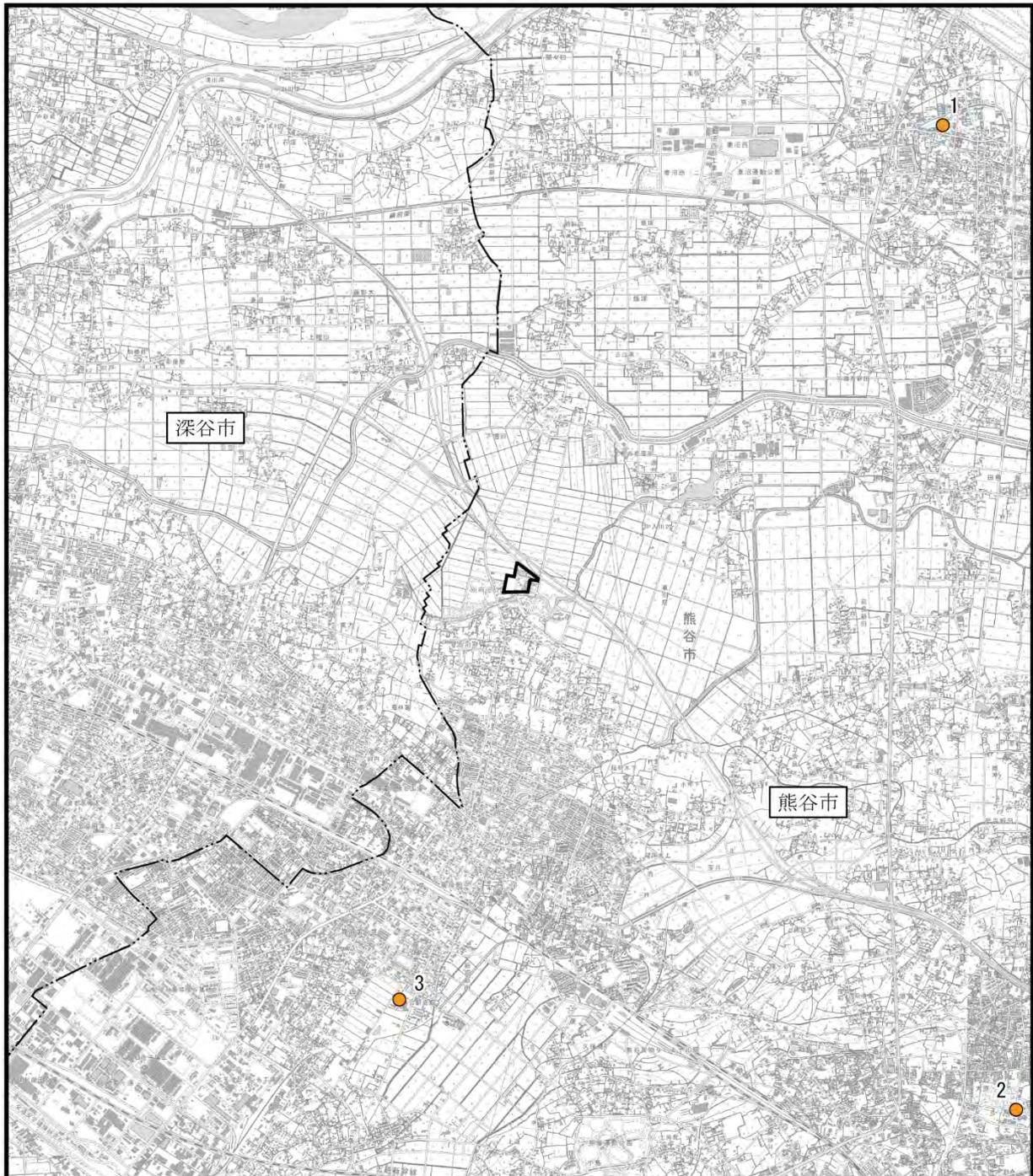
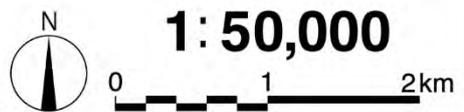


図 3.2-22 景観資源の状況

凡 例

- : 対象事業実施区域
- — — : 市 界
- : 景観資源



出典：「埼玉県景観資源データベース」
 (令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)

この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

イ 自然とのふれあいの場

(ア) 公園

対象事業実施区域及びその周囲における自然とのふれあいの場の状況は、表 3.2-38 及び図 3.2-23 に示すとおりである。

対象事業実施区域近傍の公園としては、別府沼公園が対象事業実施区域の南側側に位置している。

表 3.2-38(1) 自然とのふれあいの場の状況(公園)

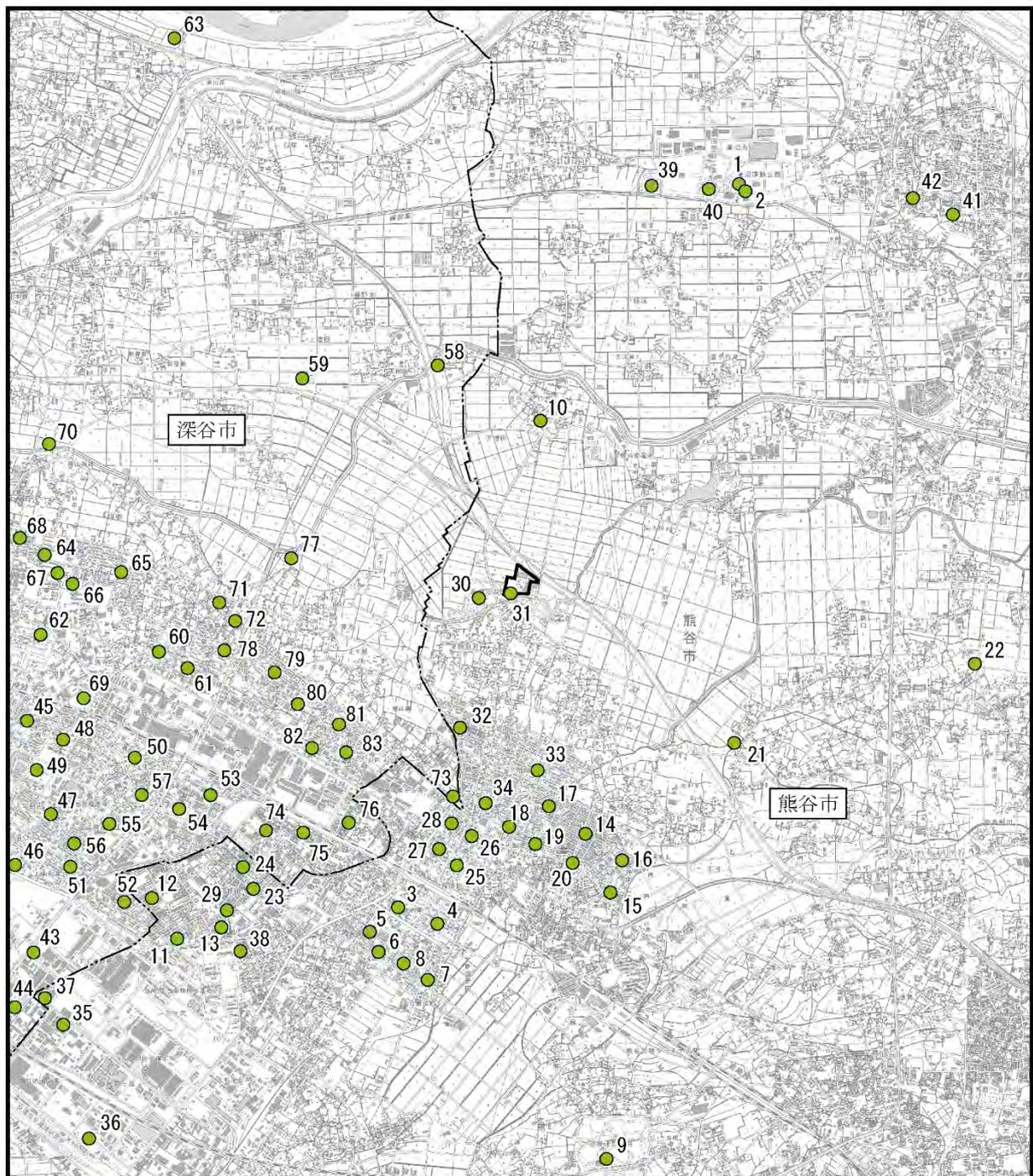
No.	名称	No.	名称
1	妻沼運動公園	24	籠原第3公園
2	妻沼運動公園子ども広場	25	新堀第2公園
3	籠原南第1公園	26	新堀第3公園
4	籠原南第2公園	27	新堀第4公園
5	籠原南第3公園	28	新堀第5公園
6	籠原南第4公園	29	籠原第2公園
7	籠原南第5公園	30	別府沼公園
8	籠原中央公園	31	別府農村公園
9	熊谷さくら運動公園	32	別府第1公園
10	下増田公園	33	別府第2公園
11	寿公園	34	別府第3公園
12	外原西公園	35	みいずが原上林公園
13	外原公園	36	みいずが原公園
14	玉井公園	37	中林公園
15	玉井稲荷木第1公園	38	美土里町公園
16	玉井稲荷木第2公園	39	妻沼西第1公園
17	玉井在家第1公園	40	妻沼西第2公園
18	玉井在家第2公園	41	妻沼さくら公園
19	玉井在家第3公園	42	妻沼中央公園
20	玉井緑地	43	松原公園
21	中奈良公園	44	中折之口公園
22	奈良中央公園	45	外山公園
23	籠原第1公園	46	南公園

出典：「彩の国埼玉情報サイト さいたまなび」（令和3年7月閲覧）

表 3.2-38(2) 自然とのふれあいの場の状況(公園)

No.	名称	No.	名称
47	町裏公園	66	常盤公園
48	西原公園	67	常盤西公園
49	上柴中央公園	68	常盤町広場
50	諏訪公園	69	東公園
51	下原公園	70	ブリッジパーク
52	ひがし公園	71	杉町公園
53	中原公園	72	杉町東公園
54	柴崎公園	73	籠原公園
55	つばき公園	74	下原前公園
56	上柴団地第4公園	75	東方広場
57	諏訪東公園	76	あおぞら公園
58	本田ヶ谷公園	77	城下公園
59	明戸農村公園	78	上宿前公園
60	三島公園	79	中宿公園
61	天神公園	80	下宿公園
62	ふれあい公園	81	南下郷公園
63	高島運動公園	82	横町公園
64	さつき公園	83	川内公園
65	やよい公園		

出典：「彩の国埼玉情報サイト さいたまなび」(令和3年7月閲覧)



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市 界
- : 公園

図 3.2-23(1) 自然とのふれあいの場(公園)



出典：「彩の国埼玉情報ナビ さいたまなび」（令和3年7月閲覧）

この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

(イ) その他

対象事業実施区域及びその周囲における公園以外の自然とのふれあいの場の状況は、表 3.2-39、表 3.2-40 及び図 3.2-23(2)に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲には、文化創造館さくらめいと、妻沼聖天山及び熊谷市内の桜の名所である妻沼緑道が存在するほか、健康増進に向けたウォーキングコースが存在する。

表 3.2-39 自然とのふれあいの場の状況(その他)

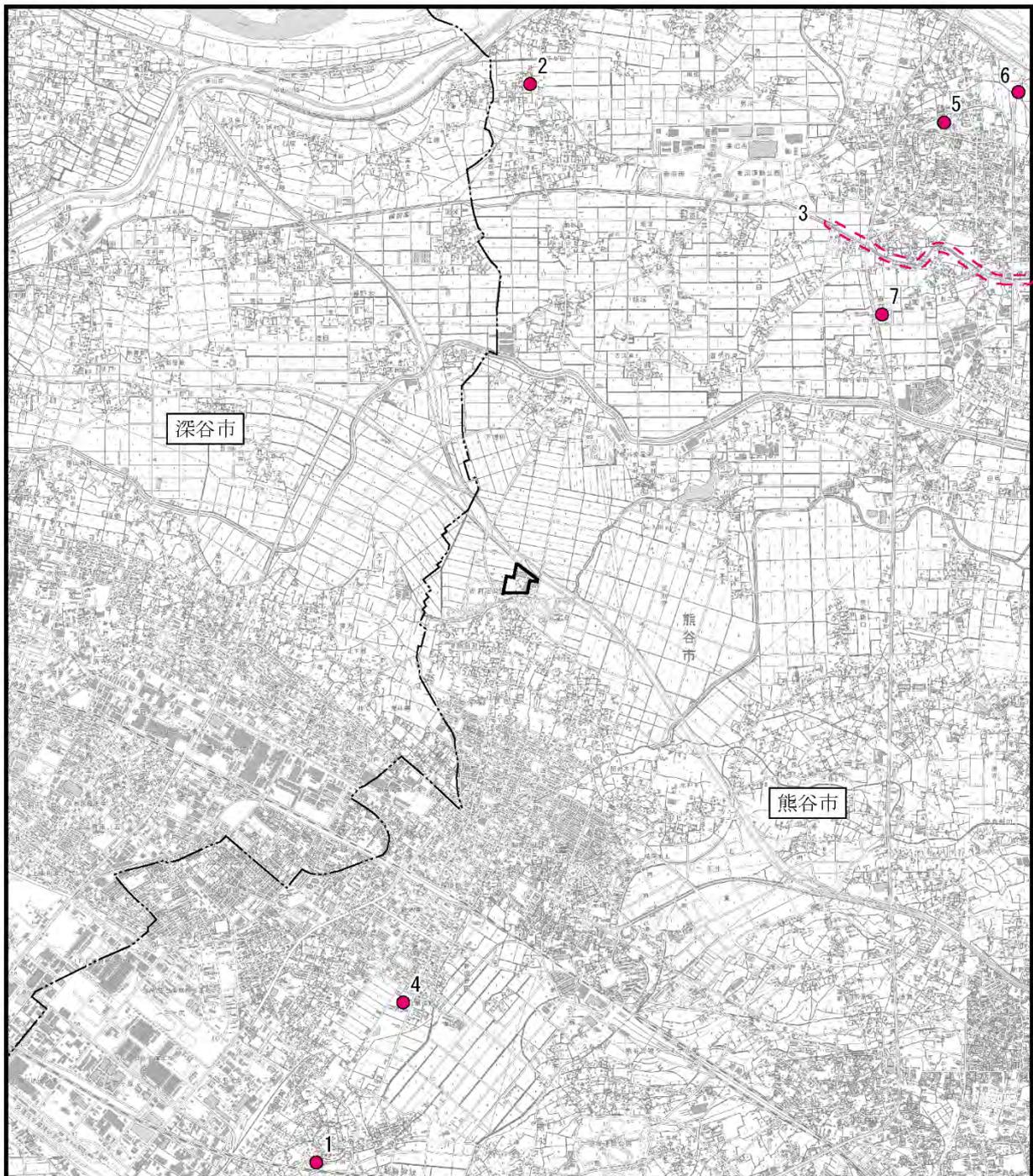
No.	名称
1	幸安寺
2	能護寺
3	備前渠用水路
4	文化創造館さくらめいと
5	妻沼聖天山
6	妻沼緑道
7	道の駅めぬま

出典：「熊谷のみどころ」(令和3年7月閲覧、熊谷市ホームページ)

表 3.2-40 ウォーキングコースの状況

No.	名称	所在地
1	三尻公民館周回コース	熊谷市
2	聖天様歴史コース	熊谷市
3	能護寺散策コース	熊谷市
4	明戸コース	深谷市
5	上柴コース	深谷市

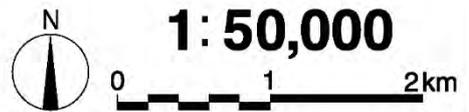
出典：「市内おすすめウォーキングコース」(令和3年7月閲覧、熊谷市ホームページ)
「健康づくり」(令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ)



凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 市 界
-  : 自然とのふれあいの場
-  : 自然とのふれあいの場

図 3.2-23(2) 自然とのふれあいの場(その他)



出典：「熊谷のみどころ」（令和3年7月閲覧、熊谷市ホームページ）

この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

(7) 文化財その他の生活環境の状況

ア 文化財

(ア) 指定文化財

対象事業実施区域及びその周囲における指定文化財の状況は表 3.2-41 に、位置図は図 3.2-24 に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲には、国宝が 1 件、国指定文化財が 4 件、国登録の文化財が 10 件、県指定の文化財が 4 件、熊谷市指定の文化財が 22 件、深谷市指定の文化財が 18 件存在する。

なお、対象事業実施区域に最も近い文化財は、南方向約 500m に県指定史跡の上杉憲英墓が存在する。

表 3.2-41(1) 指定文化財の状況

No.	区分	種別	名称	所在地
1	国指定	国宝	歓喜院聖天堂	熊谷市妻沼1511
2		重要文化財(建築物)	貴惣門	熊谷市妻沼1511
3			日本煉瓦製造株式会社 旧煉瓦製造施設 (ホフマン輪窯 6 号窯、旧事務所(煉瓦史料館)、旧変電室、備前渠鉄橋)	深谷市上敷免28番10ほか
			4	史跡
5		旧跡	上杉憲英墓	深谷市国済寺521
6	国登録	有形文化財(建造物)	坂田医院旧診療所	熊谷市妻沼1420
7			歓喜院籠堂	熊谷市妻沼1511
8			歓喜院鐘楼	
9			歓喜院闕伽井堂	
10			歓喜院三宝荒神社	
11			歓喜院五社大明神	
12			歓喜院天満社	
13			歓喜院仁王門	
14			歓喜院水屋	
15			幡羅官衙遺跡群	
16	県指定	史跡	上杉憲英墓	熊谷市西別府2044
17			坂田医院旧診療所	熊谷市東別府778
18		旧跡	吉田市右衛門墓	熊谷市下奈良
19			忍領石標	熊谷市石原
20	熊谷市指定	有形文化財(建造物)	四脚門	熊谷市妻沼1511

注) No.は図3.2-24と対応している。

出典：「熊谷市デジタルミュージアム 常時展示室 文化財の部屋」(令和3年7月閲覧、熊谷市ホームページ)

「深谷市の歴史と文化財」(令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ)

「深谷市ガイドマップ」(令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ)

表 3.2-41(2) 指定文化財の状況

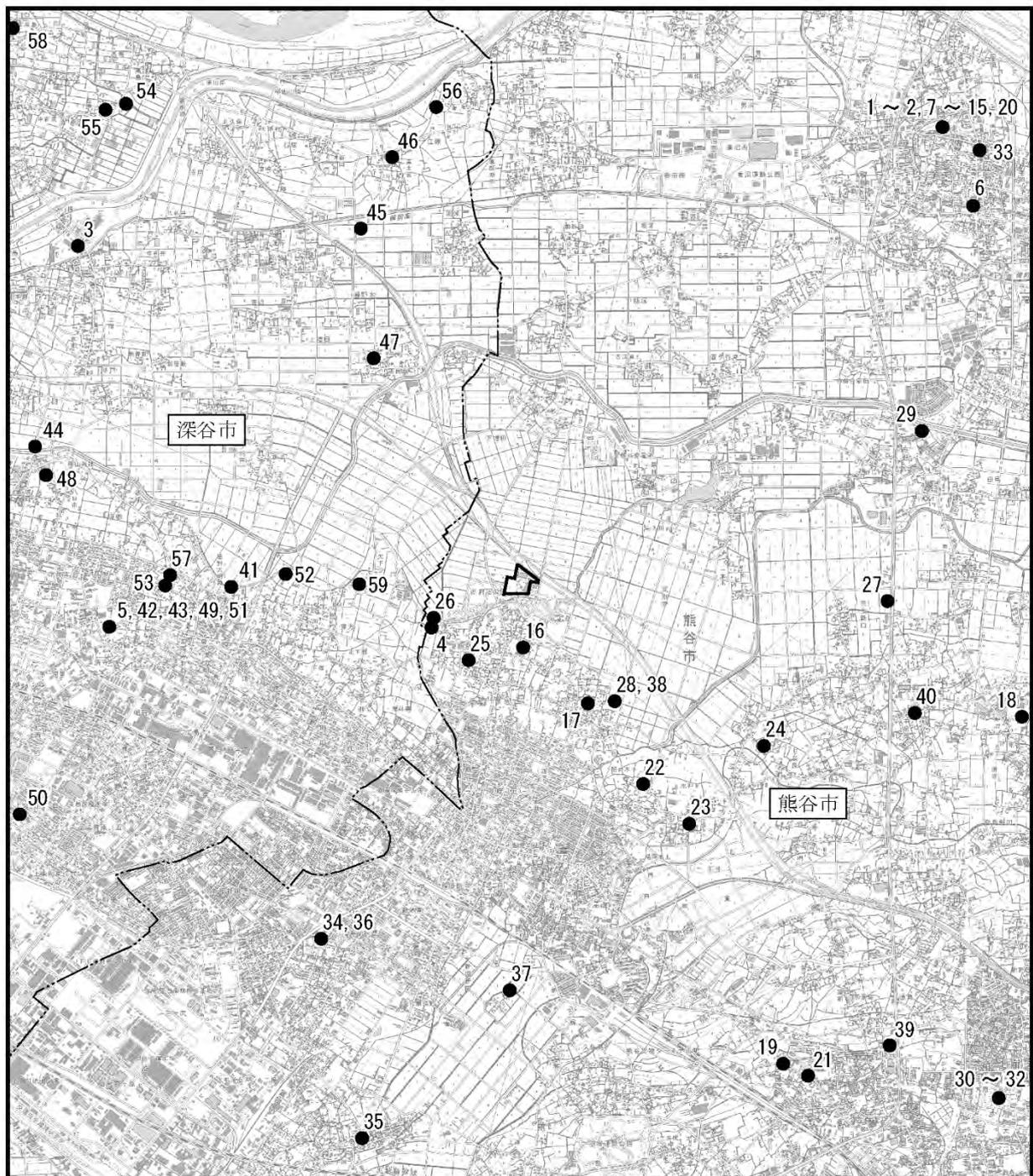
No.	区分	種別	名称	所在地
21	熊谷市 指定	史跡	一里塚	熊谷市新島257-1
22			玉井四郎の墓	熊谷市玉井1888
23			元素楼跡	熊谷市玉井
24			奈良三郎の墓	熊谷市上奈良702
25			西別府館跡	熊谷市西別府
26			西別府祭祀遺跡	熊谷市西別府1575
27			横塚山古墳	熊谷市中奈良
28			権田愛三墓	熊谷市東別府
29			斎藤別当実盛館跡	熊谷市西野
30			竹井澹如墓	熊谷市大原
31			林有章墓	熊谷市大原
32			酒井天外墓	熊谷市大原
33			両宜塾跡	熊谷市妻沼
34			名勝	三尻観音山
35		天然記念物	榎	熊谷市拾六間689
36			いぬ桜	熊谷市三ヶ尻
37			いちいがし	熊谷市拾六間689
38			榎	熊谷市新堀新田
39			無患子	熊谷市東別府799
40			伽羅木	熊谷市原島1192
41			榎	熊谷市中奈良1310-1
42	深谷市 指定	有形文化財（建造物）	熊野大神社本殿	深谷市東方1708
43			国済寺黒門	深谷市国済寺521
44			国済寺三門	深谷市国済寺521
45			福川鉄橋	深谷市原郷574-2
46		史跡	蓮沼氏館跡	深谷市蓮沼578他
47			荏原氏館跡	深谷市江原375他
48			増田氏館跡	深谷市上増田218他
49			伝幡羅太郎館跡	深谷市原郷362
50			庁鼻和城跡	深谷市国済寺521他
51			秋元氏墓	深谷市上柴町西4-26-1
52			上杉氏歴代墓	深谷市国済寺521
53			東方城跡	深谷市東方1790
54			木の本古墳群3号墳	深谷市原郷1976他
55			新開荒次郎実重墓	深谷市新戒198
56			新開荒次郎実重夫人墓	深谷市新戒222
57			論所堤定杭	深谷市江原865
58			木の本塁跡	深谷市原郷1975
59			天然記念物	榎老木
60		榎(雌)		深谷市東方2902

注) No.は図3.2-24と対応している。

出典：「熊谷市デジタルミュージアム 常時展示室 文化財の部屋」（令和3年7月閲覧、熊谷市ホームページ）

「深谷市の歴史と文化財」（令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ）

「深谷市ガイドマップ」（令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ）

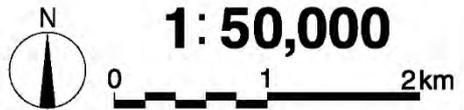


凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市 界
- : 指定文化財等

図 3.2-24 指定文化財等位置図

出典：「熊谷市デジタルミュージアム 常時展示室 文化財の部屋」
 (令和3年7月閲覧、熊谷市ホームページ)
 「深谷市の歴史と文化財」(令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ)
 「深谷市ガイドマップ」(令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ)



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

(イ) 埋蔵文化財

対象事業実施区域及びその周囲における埋蔵文化財包蔵地の状況は、図 3.2-25 に示すとおりである。

対象事業実施区域には、横間栗遺跡が存在する。横間栗遺跡については、表 3.2-42 に示すとおりである。

表 3.2-42 横間栗遺跡

遺跡名	所在地	種別	時代
横間栗遺跡	西別府横間栗583番ほか、 西別府	集落跡、墓、再葬墓	縄文後期、弥生中期、 古墳前期後期、奈良、 平安、江戸

出典：「くまがや遺跡情報」(令和3年7月閲覧、熊谷市教育委員会)

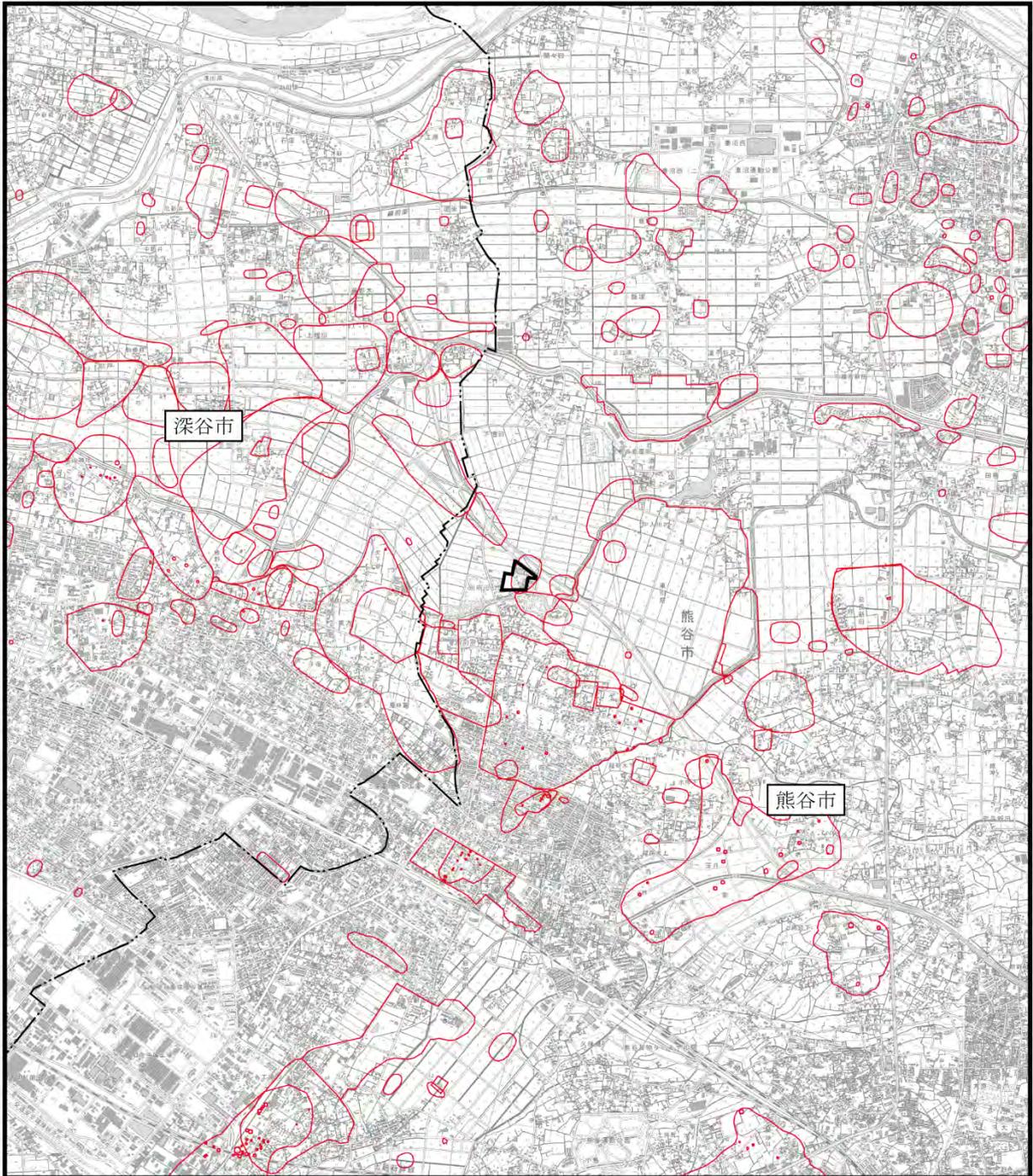


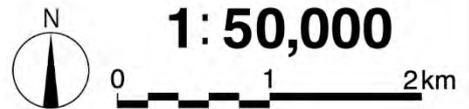
図 3.2-25 埋蔵文化財包蔵地の状況

凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 市 界
-  : 埋蔵文化財包蔵地

出典：「くまがや遺跡情報」（令和 3 年 7 月閲覧、熊谷市教育委員会）
「深谷市遺跡地図」（2021 年 1 月現在、深谷市）

この地図は、国土地理院発行の電子地形図 2 万 5 千分の 1 を使用したものである。



イ 温室効果ガス排出量

対象事業実施区域及びその周囲における平成 28 年度の二酸化炭素排出量は表 3.2-43 に、対象事業実施区域の位置する熊谷市における二酸化炭素排出量の経年変化は図 3.2-26 に示すとおりである。

平成 28 年度の二酸化炭素排出量は、熊谷市、深谷市ともに産業部門の割合が最も高く、次いで、運輸部門、家庭部門となっている。

対象事業実施区域の位置する熊谷市の業務部門、業務部門、運輸部門及び廃棄物部門の二酸化炭素排出量は、平成 19 年度から平成 28 年度においてほぼ横ばいで推移している。産業部門は平成 21 年度からの平成 23 年度まで増加傾向で推移したが、その後は減少傾向となっている。

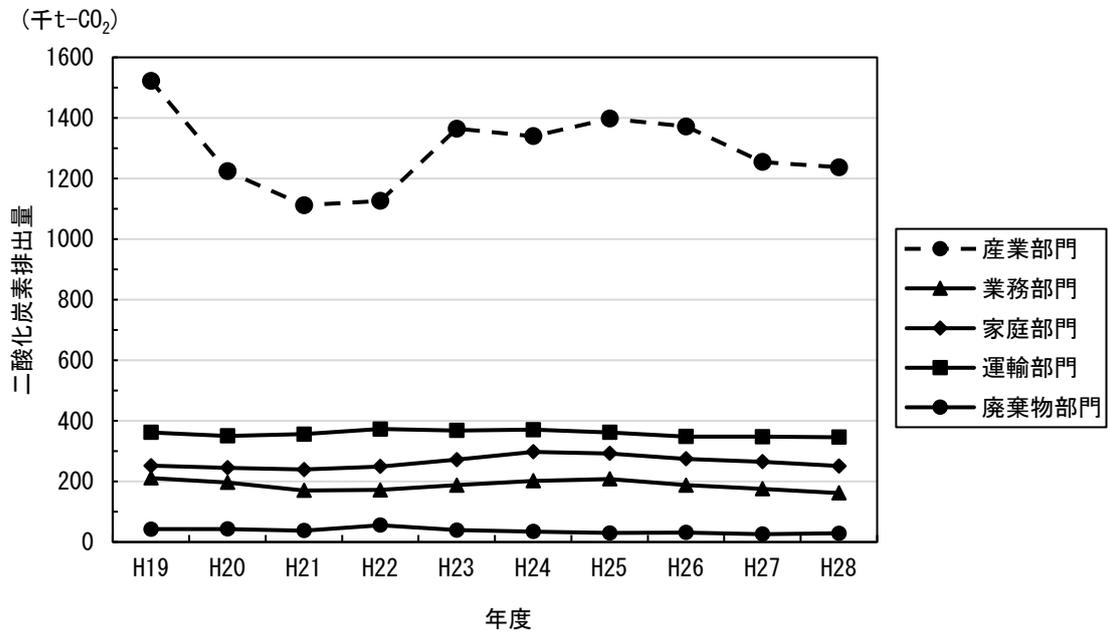
表 3.2-43 二酸化炭素量(平成28年度)

市名	区分	排出量	
		千 t -CO ₂	%
熊谷市	産業部門	1,237.6	61.1
	業務部門	161.9	8.0
	家庭部門	250.8	12.4
	運輸部門	346.2	17.1
	廃棄物部門	28.3	1.4
	合計	2,024.7	100
深谷市	産業部門	440.0	44.8
	業務部門	91.1	9.3
	家庭部門	176.9	18.0
	運輸部門	255.3	26.0
	廃棄物部門	19.7	2.0
	合計	983.0	100

注)端数処理を行っているため、排出量の合計が100%にならない場合がある。

出典：「市町村温室効果ガス排出量推計報告書2016年度」

(令和元年5月、埼玉県温暖化対策課 埼玉県環境科学国際センター)



出典：「市町村温室効果ガス排出量推計報告書2016年度」

(令和元年5月、埼玉県温暖化対策課 埼玉県環境科学国際センター)

図 3.2-26 熊谷市における二酸化炭素排出量の経年変化

ウ 一般環境中の放射性物質

対象事業実施区域及びその周囲における放射線量の測定結果は表 3.2-44 に、測定地点位置図は図 3.2-27 に示すとおりである。

対象事業実施区域に最も近い別府沼公園における令和 2 年度の測定結果は、0.036～0.047 μ Sv/h であった。

環境省では、「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」(平成 23 年 8 月、法律第 110 号)に基づく汚染状況重点地域の指定や、除染実施計画を策定する地域の要件を、0.23 μ Sv/h 以上の地域であることとしている。この基準と比較すると、対象事業実施区域及びその周囲において測定された放射線量は低い値である。

表 3.2-44(1) 放射線量の測定結果

No.	調査地点	測定結果(μ Sv/h)				測定箇所	
		令和2年度					
		4月	7月	10月	1月		
1	妻沼運動公園	0.044	0.035	0.036	0.046	芝	地表1m
2	別府沼公園	0.047	0.038	0.036	0.037	芝	地表1m
3	外原公園	0.040	0.038	0.037	0.048	土	地表1m
4	熊谷さくら運動公園	0.036	0.034	0.038	0.050	芝	地表1m
5	妻沼庁舎	0.057	0.044	0.043	0.059	敷地	地表1m

注)No.は図 3.2-27の番号と対応している。

出典：「市内小・中学校、保育所、幼稚園、公園、庁舎での定点における放射線測定結果」

(令和3年7月閲覧、熊谷市ホームページ)

表 3.2-44(2) 放射線量の測定結果

No.	調査地点	測定結果(μSv/h)				測定箇所
		令和2年度				
		5月	8月	11月	2月	
6	大幡小学校	0.028	0.030	0.033	0.029	地表50cm
7	玉井小学校	0.033	0.048	0.053	0.058	地表50cm
8	別府小学校	0.031	0.036	0.036	0.042	地表50cm
9	三尻小学校	0.019	0.025	0.024	0.026	地表50cm
10	奈良小学校	0.051	0.047	0.045	0.038	地表50cm
11	籠原小学校	0.027	0.034	0.033	0.039	地表50cm
12	新堀小学校	0.025	0.032	0.035	0.033	地表50cm
13	妻沼小学校	0.032	0.019	0.031	0.030	地表50cm
14	男沼小学校	0.030	0.018	0.021	0.025	地表50cm
15	太田小学校	0.027	0.034	0.028	0.037	地表50cm
16	妻沼南小学校	0.032	0.019	0.045	0.035	地表50cm
17	玉井中学校	0.028	0.026	0.027	0.033	地表50cm
18	別府中学校	0.035	0.028	0.037	0.038	地表1m
19	三尻中学校	0.032	0.038	0.041	0.044	地表1m
20	奈良中学校	0.035	0.043	0.037	0.040	地表1m
21	大幡中学校	0.046	0.039	0.055	0.047	地表1m
22	妻沼西中学校	0.036	0.035	0.023	0.036	地表1m
23	東漸寺幼稚園	0.054	0.024	0.047	0.043	地表50cm
24	籠原若竹幼稚園	0.025	0.035	0.035	0.037	地表50cm
25	妻沼幼稚園	0.042	0.059	0.047	0.060	地表50cm
26	西妻沼幼稚園	0.042	0.034	0.039	0.081	地表50cm

注)No.は図 3.2-27の番号と対応している。

出典：「市内小・中学校、保育所、幼稚園、公園、庁舎での定点における放射線測定結果」

(令和3年7月閲覧、熊谷市ホームページ)

表 3.2-44(3) 放射線量の測定結果

No.	調査地点	測定結果($\mu\text{Sv/h}$)				測定箇所
		令和2年度				
		6月	9月	12月	3月	
27	ことぶき花ノ木保育園	0.053	0.050	0.054	0.046	地表50cm
28	三尻こども園	0.070	0.054	0.048	0.072	地表50cm
29	ことぶき乳児保育園	0.058	0.071	0.070	0.064	地表50cm
30	籠原保育所	0.052	0.043	0.062	0.050	地表50cm
31	奈良保育園	0.07	0.083	0.085	0.079	地表50cm
27	ことぶき花ノ木保育園	0.053	0.050	0.054	0.046	地表50cm
28	三尻こども園	0.070	0.054	0.048	0.072	地表50cm
29	ことぶき乳児保育園	0.058	0.071	0.070	0.064	地表50cm
30	籠原保育所	0.052	0.043	0.062	0.050	地表50cm
31	奈良保育園	0.07	0.083	0.085	0.079	地表50cm
32	田島保育園	0.059	0.053	0.075	0.051	地表50cm
33	道ヶ谷戸愛児園	0.051	0.050	0.057	0.049	地表50cm
34	ことぶき イーサイト保育園	0.050	0.036	0.045	0.047	地表50cm
35	籠原のこキッズ保育園	0.052	0.052	0.056	0.060	地表50cm
36	玉井保育所	0.039	0.041	0.046	0.037	地表50cm
37	しらこぼと保育園	0.037	0.039	0.038	0.034	地表50cm
38	第二なでしこ保育園	0.056	0.052	0.057	0.051	地表50cm
39	第三なでしこ保育園	0.052	0.04	0.064	0.058	地表50cm
40	三尻こども園	0.070	0.054	0.048	0.072	地表50cm
32	田島保育園	0.059	0.053	0.075	0.051	地表50cm
33	道ヶ谷戸愛児園	0.051	0.050	0.057	0.049	地表50cm

注)No.は図 3.2-27の番号と対応している。

出典：「市内小・中学校、保育所、幼稚園、公園、庁舎での定点における放射線測定結果」

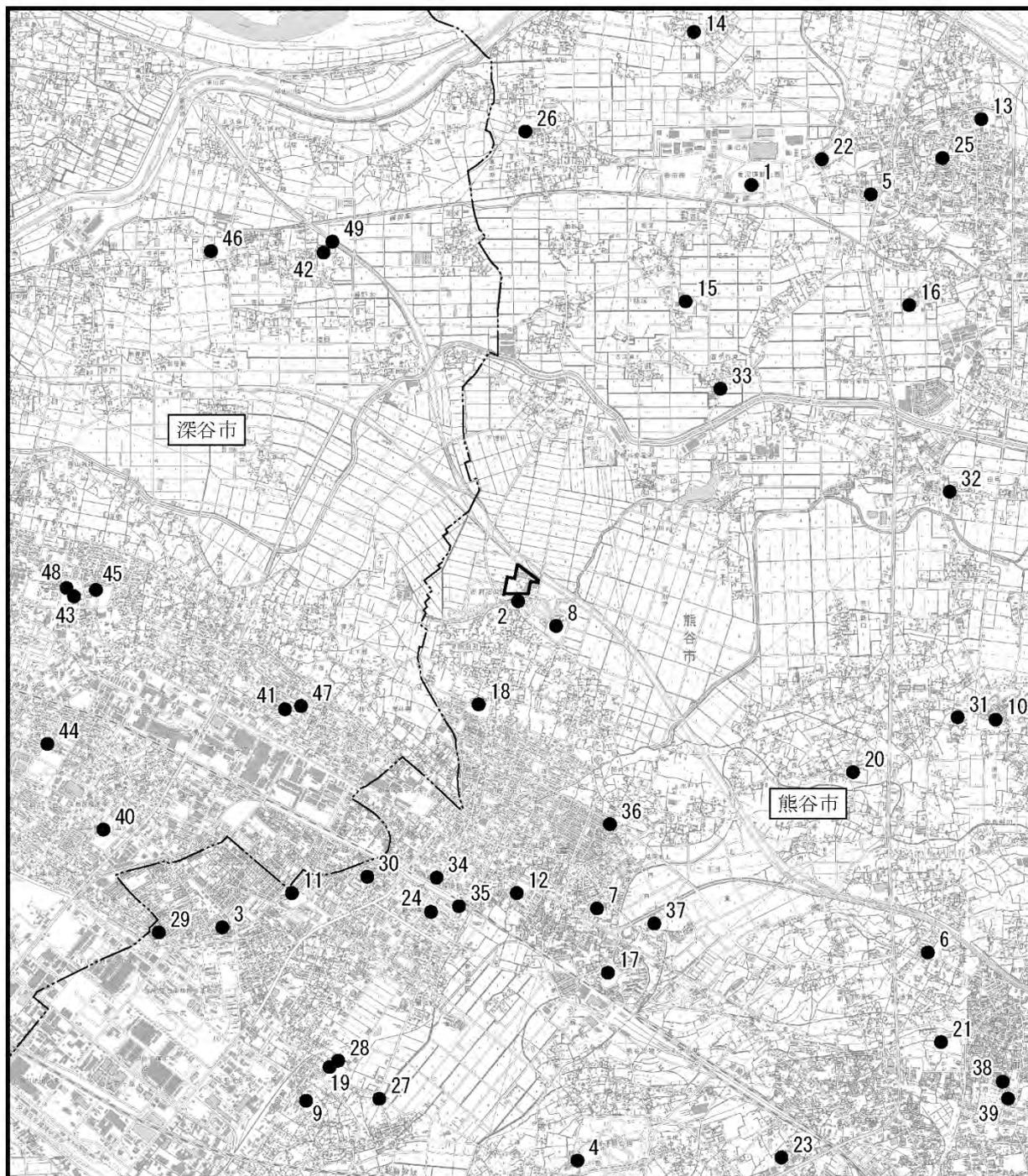
(令和3年7月閲覧、熊谷市ホームページ)

表 3.2-44(4) 放射線量の測定結果

No.	調査地点	測定結果(μSv/h)		測定箇所
		令和2年度		
		8月	2月	
41	上柴東小学校	0.023	0.028	地上50cm
42	幡羅小学校	0.031	0.036	地上50cm
43	明戸小学校	0.041	0.032	地上50cm
44	常盤小学校	0.033	0.029	地上50cm
45	上柴中学校	0.034	0.032	地上1m
46	幡羅中学校	0.032	0.036	地上1m
47	明戸中学校	0.040	0.048	地上1m
48	幡羅幼稚園	0.031	0.036	地上50cm
49	常盤幼稚園	0.033	0.029	地上50cm
50	明戸幼稚園	0.041	0.032	地上50cm

注)No.は図 3.2-27の番号と対応している。

出典：「平成23年11月以降の放射線量測定及び除染の結果」(令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ)

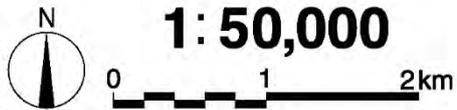


凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市 界
- : 空間放射線量調査地点

図 3.2-27 放射線量測定地点位置図

出典：「市内小・中学校、保育所、幼稚園、公園、
 庁舎での定点における放射線測定結果」
 （令和3年7月閲覧、熊谷市ホームページ）
 「平成23年11月以降の放射線量測定及び除染の結果」
 （令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ）



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

エ 公害苦情の状況

対象事業実施区域の位置する熊谷市における平成26年度から平成30年度の公害に関する苦情件数は、表 3.2-45 及び図 3.2-28 に示すとおりである。

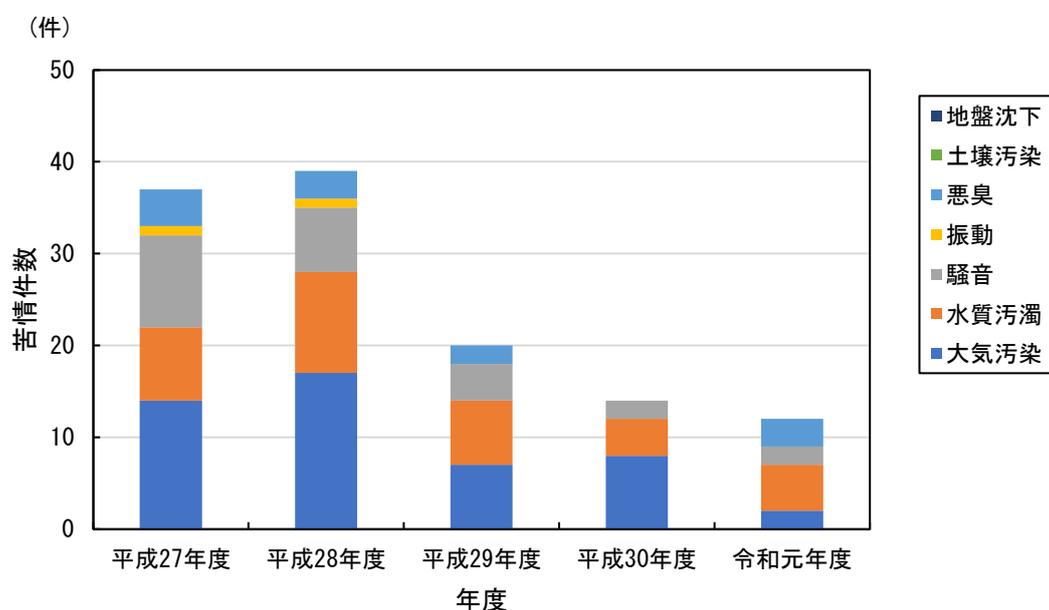
平成28年度までは公害苦情件数は30件を超えていたが、平成29年度以降は減少傾向にある。

令和元年度の公害苦情の総数は12件であり、水質汚濁に関する苦情が5件と最も多くなっている。

表 3.2-45 公害苦情件数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
大気汚染	14	17	7	8	2
水質汚濁	8	11	7	4	5
騒音	10	7	4	2	2
振動	1	1	0	0	0
悪臭	4	3	2	0	3
土壌汚染	0	0	0	0	0
地盤沈下	0	0	0	0	0
合計	37	39	20	14	12

出典：「熊谷市環境白書(令和2年度版)」(令和3年7月閲覧、熊谷市ホームページ)



出典：「熊谷市環境白書(令和2年度版)」(令和3年7月閲覧熊谷市ホームページ)

図 3.2-28 公害苦情件数の推移